

デイスカバー

むらの たから

農

山

漁

村

の

宝

見つけよう！
今、元気なムラの取組

第五回
選定事例集

デイスカバー

むらの たから

農山漁村の宝

お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 活性化推進班

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 tel 03-3502-5948 (直通) fax 03-3595-6340

「デイスカバー農山漁村の宝」ホームページ

[URL] <http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>



事例に関するお問い合わせや本事例集に関する御意見等がございましたら、
上記又はお近くの地方農政局（沖縄県につきましては沖縄総合事務局）まで御連絡ください。

農林水産省

「ディスカバー農山漁村の宝」 グランプリ及び特別賞について

平成 26 年（第 1 回選定）からスタートした「ディスカバー農山漁村の宝」は、平成 30 年選定（第 5 回選定）として、6 月 1 日から約 2 ヶ月間公募し、合計 1,015 件の応募の中から 32 地区を選定しました。

また、選定された 32 地区の中からさらにグランプリ及び特別賞（フレンドシップ賞、ジビエグルメ賞、チャレンジ賞、アクティブ賞、プロデュース賞）を決定しました。



グランプリ

株式会社 もてぎプラザ

栃木県
もてぎ
茂木町

ゆずの加工品や、町内産米粉と地元産たまごを使用したバウムクーヘンを開発し、地産地消に貢献。地域の雇用にも貢献し、雇用者数が、4 名から 34 名に増加（H25～H29）。「手づくり工房」及び「バウム工房ゆずの木」の売上が約 3,300 万円から約 1.8 億円に増加（H25～H29）。



フレンドシップ賞
インバウンドに対応した
農泊に取り組む
優良事例

株式会社 いただきますカンパニー

北海道
おひつ
帯広市

ガイドと一緒に畑を歩き、そこで採れたものを食べる体験「畑ガイドと行く農場ピクニック」を日本で初めて実施。畑ガイドツアーの参加者数は、150 人から約 2,600 人に増加（H25～H29）。



ジビエグルメ賞
捕獲鳥獣をジビエ等に
有効活用している
優良事例

合同会社 のとしし団

石川県
ほくい
羽咋市

平成 27 年に獣肉加工施設を整備し、捕獲したイノシシを地域資源として活用する、「のとしし大作戦」を開始。精肉販売額は、100 万円から 1,600 万円に増加（H27～H29）。



チャレンジ賞
農林水産物と
その加工品の輸出に
取り組む優良事例

北川村ゆず輸出促進協議会

高知県
きたがわ
北川村

海外の販路を求め輸出促進協議会を設立。世界初となる EU への「青果ゆず」の輸出を開始。青果ゆずの輸出数量は、約 3t から 8t に増加（H25～H29）。



アクティブ賞
女性や高齢者、
障がい者が活躍している
優良事例

ウーマンメイク株式会社

大分県
おおい
国東市

女性だけで起業。柔軟な勤務形態でレタス栽培に取り組み、地元雇用を創出。レタスの売上は、4,200 万円から 6,200 万円に増加（H28～H29）。



プロデュース賞
6 次産業化の
推進に取り組む
優良事例

有限会社 こやま園

兵庫県
たんご
丹波市

「なた豆」を「なた豆茶」として、加工販売。香港やベトナムに現地法人を立ち上げ、輸出を開始。「なた豆茶」の売上は、8,000 万円から 1.2 億円に増加（H25～H29）。

「ディスカバー農山漁村の宝」の概要

趣 旨

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

対象となる取組

- ◆ 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ◆ 幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- ◆ 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

有識者懇談会委員（五十音順、敬称略）



あん・まくどなり
上智大学大学院教授
慶応義塾大学特任教授



今村 司
日本テレビ放送網（株）
執行役員 事業局長



織作 峰子
大阪芸術大学教授
写真家



田中 里沙
事業構想大学院大学学長
（株）宣伝会議取締役



永島 敏行
俳優
（有）青空市場代表取締役



林 良博
国立科学博物館館長



藤井 大介
（株）大田原ツーリズム
代表取締役社長
（株）ファーム・アンド・
ファーム・カンパニー
代表取締役社長



三國 清三
オテル・ドゥ・ミクニ
オーナーシェフ



向笠 千恵子
フードジャーナリスト
食文化研究家
郷土料理伝承学校校長



横石 知二
（株）いろどり
代表取締役社長



ロゴマーク

農山漁村の原風景をモチーフに、知恵と工夫で地域の特色を生かした地域住民の絆、たゆまぬ向上心、やさしい手、温かい手づくりで支えるパワーが、キラリと光る「農山漁村（むら）の宝」として輝きを増している様子を表しています。

〔制作者：松岡 英雄 様（グラフィックデザイナー）〕

選定証授与式・交流会

「ディスカバー農山漁村の宝」第5回選定地区の代表者は、平成30年11月22日に首相官邸において、選定証を受領し、内閣総理大臣、内閣官房長官、農林水産大臣、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）等からの直接の激励を受けるとともに、代表者同士の交流を行いました。



有識者懇談会座長から選定証を授与



農林水産大臣、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）との記念撮影



内閣総理大臣が出席する交流会で、グランプリ及び特別賞を発表。グランプリには内閣総理大臣から桶を授与。内閣総理大臣をはじめ、内閣官房長官、農林水産大臣、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）等が選定地区を激励。

「ディスカバー農山漁村の宝」 第5回選定地区 一覧 (32地区)

※桃色の番号の地区は、全国9ブロック（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄）各ブロックで評価が最も高かった地区。

- 中国**
- 22 島根県 大田市
おおだ一日漁推進協同組合
 - 23 岡山県 美作市
地美恵の郷みまさか（美作市獣肉処理施設）
 - 24 山口県 周防大島町
株式会社 瀬戸内ジャムズガーデン
- 四国**
- 25 徳島県 阿南市
加茂谷元気なまちづくり会
 - 26 愛媛県 西予市
企業組合 遊子川ザ・リコピンズ
 - 27 高知県 北川村
（チャレンジ賞）北川村ゆず輸出促進協議会
- 九州・沖縄**
- 28 福岡県 太宰府市
福岡県立福岡農業高等学校 食品科学科梅研究班
 - 29 大分県 豊後大野市
株式会社 成美
 - 30 大分県 国東市
（アクティブ賞）ウーマンメイク株式会社
 - 31 宮崎県 串間市
株式会社 くしまアオイファーム
 - 32 沖縄県 南城市
株式会社 美らイチゴ

- 東海**
- 16 愛知県 豊田市
一般社団法人 おいでん・さんそん
 - 17 愛知県 新城市
つくでスマイル推進協議会
 - 18 三重県 尾鷲市
株式会社 梶賀コーポレーション
- 近畿**
- 19 京都府 与謝野町
与謝地域山村活性化協議会
 - 20 兵庫県 丹波市
（プロデュース賞）有限会社 こやま園
 - 21 奈良県 川上村
一般社団法人 吉野かわかみ社中



- 北海道**
- 01 北海道 帯広市
（フレンドシップ賞）株式会社 いただきますカンパニー
 - 02 北海道 北竜町
黒千石事業協同組合
 - 03 北海道 雄武町
農業生産法人 株式会社 神門

- 東北**
- 04 岩手県 遠野市
遠野・三陸ブランド海外輸出協議会
 - 05 宮城県 仙台市
農事組合法人 仙台イーストカントリー
 - 06 宮城県 大崎市
大崎の米『さき結』ブランドコンソーシアム
 - 07 秋田県 大館市
大館市まるごと体験推進協議会
 - 08 福島県 猪苗代町
農事組合法人 結乃村農楽団

- 関東**
- 09 栃木県 足利市
有限会社 ココ・ファーム・ワイナリー
 - 10 栃木県 茂木町
（グランプリ）株式会社 もてぎプラザ
 - 11 埼玉県 秩父市
一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社
 - 12 山梨県 市川三郷町
株式会社 桑郷

- 北陸**
- 13 富山県 南砺市
南砺市商工会 利賀村支部
 - 14 石川県 羽咋市
（シビエグルメ賞）合同会社 のとしし団
 - 15 福井県 小浜市
小浜市阿納体験民宿組合

株式会社 いただきますカンパニー



該当カテゴリー

農林漁業・農山漁村文化体験

地元食材の提供・活用

女性・高齢者の活躍

〒080-0022 北海道帯広市
西12条南29丁目2-5

tel 0155-29-4821

fax 050-3730-5127

mail info@itadakimasu.cc

定年退職者や主婦などが有償の畑ガイドとして活躍



小麦畑の風景にも景観価値があることを証明

概要

- ◆ 十勝では専業農家が多く、農業体験の場がなかったため、子育てサークルを立ち上げ農業体験イベントを始めたことをきっかけに事業化。
- ◆ ガイドと一緒に畑を歩き、そこで採れたものを食べる体験「畑ガイドと行く農場ピクニック」を日本で初めて実施。
- ◆ 地域の子どもたちに農業を伝えるため、農協やメーカーと協働で学校へも無料で出前訪問を実施。

成果

- ◆ 夏休みは首都圏からの家族連れ、春・秋は外国人旅行者など、シーズンを通した集客ができており、外国人観光客の割合は20～30%に達している。
- ◆ 畑ガイドツアーの参加者数は、150人から約2,600人に増加(H25～H29)。
- ◆ 参加者数の増加に伴い、ツアーの売上は、約300万円から約1,200万円に増加(H25～H29)。



畑の真ん中で素材を活かしたシンプルな昼食

黒千石事業協同組合



該当カテゴリー

食育・教育

地元食材の提供・活用

6次産業化

〒078-2503 北海道雨竜郡
北竜町字碧水31番地1

tel 0164-34-2377

fax 0164-34-2388

mail info@kurosengoku.or.jp

極小黒千石大豆「皮は漆黒、中実は緑色」



北竜町物産展 @ 台湾台中市の高級スーパー

概要

- ◆ 北海道の在来種である黒千石大豆は、栽培が難しく、生産が途絶えていたが、納豆業界の小粒の黒大豆への要望を受けてH17から栽培を復活。
- ◆ 黒千石納豆、黒千石きな粉、ドレッシングなどの商品を開発。
- ◆ 北海道内での各種イベントでのPRやバスツアーによる収穫体験、台湾の高級食品マーケットでの物産展でも販売。

成果

- ◆ 品種改良により、安定多収で美味しい黒千石が供給可能になり、生産者は、38人から53人に増加(H25～H29)。
- ◆ 生産量も、約130tから約240tに増加(H25～H29)。
- ◆ 黒千石の栄養成分が注目され、黒千石茶、カラメルパイなど次々に商品開発を推進。
- ◆ 町内店舗では、オリジナルメニューも開発されるなど、町内への広がりも進む。



広大な北海道の大地で栽培される黒千石大豆

農業生産法人 株式会社 神門



親子蕎麦打ち体験

該当カテゴリー

自然・景観・伝統・継承

6次産業化

学生・若者の活躍



〒098-1702 北海道紋別郡
雄武町字雄武 62 番地の 1
tel 0158-84-2333
fax 0158-84-2314
mail jinmon-i@mail.goo.ne.jp



耕作放棄地再生後の韃靼そば畑

概要

- ◆ 先人の切り拓いた広大な農地を後世に残すこと、雄武町の新たな特産品づくりのため、農業生産法人を設立。
- ◆ 耕作放棄地を再生し、消費者の健康志向に対応した韃靼そばを栽培。自社製粉貯蔵施設も整備し、乾麺の製造を開始。
- ◆ 乾麺の製造のほか、地元特産の鮭節と利尻昆布を使っためんつゆなども開発・販売。

成果

- ◆ 耕作放棄地の再生により、韃靼そばの栽培面積は、55ha から約 210ha に増加 (H25～H29)。
- ◆ 生産量も 25t から約 180t に増加 (H25～H29)。乾麺は、発売 1 年半で 5 万束を販売。
- ◆ スマート農業、ほ場整備による区画の大型化により、新卒者の新規採用も実現し、所得の安定を後押し。



韃靼そばギフトセット

遠野・三陸ブランド 海外輸出協議会



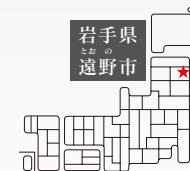
台湾スーパーでの販売

該当カテゴリー

地元食材の提供・活用

6次産業化

輸出



〒028-0502 岩手県遠野市
青笹町中沢 14-31
tel 0198-62-7233
fax 0198-62-3312
mail junrou@city.tono.iwate.jp

概要

- ◆ H27 年から海外への販路開拓に取組み、台湾の高級スーパーを招いて商談会を開催。
- ◆ このスーパーとの協定締結を契機に、物産展を開催。市内及び県内事業者が農水産物の加工品を販売。
- ◆ 米国の「東北復興応援フェア」にも参加し、乳製品の通常取引契約が成立するなど米国でも販路を拡大。

成果

- ◆ 台湾の物産展での取引による市内事業者の取引額は、2 年目の平成 29 年度は約 1,000 万円。
- ◆ 遠野高校と共同開発したスイーツも物産展に出展し、地域の若者の社会経験の機会も提供。高校生の交流が、修学旅行の受け入れにもつながった。
- ◆ 市内の他事業者に輸出の意識が拡大。



アメリカ カリフォルニア州での遠野市物産展



台湾の高級スーパーとの商談会

農事組合法人 仙台イーストカントリー



該当カテゴリー

食育・教育

復興

女性・高齢者の活躍

〒984-0032 宮城県仙台市
若林区荒井字神屋敷 224

tel 022-288-5318

fax 022-390-6678

mail info@sendaieast.jp

見事な復興を果たし、営農する喜びを感じる



蔵で造られる伝承の味噌はまさに地域の宝

概要

- ◆ 東日本大震災による津波被災後、いち早く営農を再開し、復興を牽引。
- ◆ 後継者育成のため、独立を目指す若者を雇用し、野菜の栽培指導を実施。
- ◆ 震災によって職を失った女性の働く場として、農産加工施設と農家レストランを開設。
- ◆ 地元小学校で伝統の味噌づくりの体験授業や親子を対象とした味噌づくり講習会も実施。

成果

- ◆ 農産物加工にかかる売上は、約 1,800 万円から約 3,600 万円に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 消費者が仕込んだ味噌を自社の蔵で保管するオーナー制度「My タル」を開始。
- ◆ 総菜などの新商品開発やギフト商品の開発、海外での商談会に参加。



親子が一緒に味噌づくり講習会は毎回大好評

大崎の米『ささ結』 ブランドコンソーシアム



該当カテゴリー

6 次産業化

企業・地域住民・大学との連携

復興

〒989-6153 宮城県大崎市
古川七日町 1-1

tel 0229-23-7090

fax 0229-23-7578

mail nourin@city.osaki.miyagi.jp

仙台都市圏住民との「ささ結」稲刈り体験



台東区内の小学校で「ささ結」ごはんの学校給食

概要

- ◆ ササニシキ発祥の地である大崎市で新品種開発に取り組み、環境配慮、食味の基準をクリアした新ブランド米「ささ結」を発表。
- ◆ 仙台都市圏の家族向けの田植えなどの体験イベントを実施し、環境配慮型農業や世界農業遺産の認定をPRするほか、学校給食への提供も行う。
- ◆ 酒蔵とも連携し、「純米大吟醸酒ささ結」を開発・販売。

成果

- ◆ H27 年度に販売を開始した「ささ結」は、H29 年度には、5kg で約 2,500 円と高価格帯で販売され、約 5,200 万円を売上。
- ◆ H28 年度から生産を開始した「純米大吟醸酒ささ結」は H29 年度に約 500 万円を売上。
- ◆ ササニシキ系の食味コンテストを実施し、生産技術の向上、多様な食のニーズへの対応にも取り組む。



「ささ結」と「純米大吟醸酒ささ結」の商品

大館市まるごと体験 推進協議会



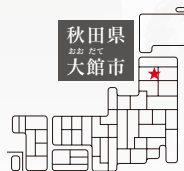
アメリカのお客様も大喜びのたんぽ体験

該当カテゴリ

農泊

インバウンド

女性・高齢者の活躍



〒017-0031 秋田県大館市
上代野字稲荷台 1-1
tel 0186-43-7149
fax 0186-48-6668
mail kouryu@city.odate.lg.jp



秋田弁ラジオ体操を楽しむ外国人団体客

概要

- ◆ 本当に美味しいきりたんぽを食べさせたい大館市の農家のお母さん達（かつちゃ）が集まり、伝統食「きりたんぽ」と農業体験を実施し、修学旅行や個人旅行を受け入れ、これを海外の方にも体験してほしいと、かつちゃ自ら、台湾でキャンペーンを実施。
- ◆ 外国人プロガーによる情報発信も実施し、海外へPR。



農家民宿で日本ならではの「書道体験」

成果

- ◆ H28 年度から外国人の受け入れに向けた取組を行い、H29 年度には、日帰り体験約 440 人を受け入れ、売上は約 84 万円。
- ◆ また、農家民宿への宿泊では、H29 年度に、外国人 186 人を受け入れ、売上は約 140 万円。
- ◆ 農業体験や秋田弁ラジオ体操は、外国人旅行者客にも好評で SNS で発信され、PR にもつながっている。

農事組合法人 結乃村農楽団



都市農山村交流先での親子餅つき体験会場

該当カテゴリ

国内観光客の誘致

地元食材の提供・活用

女性・高齢者の活躍



〒969-3100 福島県耶麻郡
猪苗代町字見祢 5269 番地
tel 0242-23-7747
fax 0242-23-7749
mail nougak@yuinomura.jp



千葉県の中学生によるアスパラガス収穫体験

概要

- ◆ 集落が衰退していくことの対策として、集落全戸全員参加の集落営農組織を立ち上げ、首都圏の自治会や大学などの交流を開始。
- ◆ 生産した農産物の提供を目的に、農家レストランを開設し、女性が活躍する場として運営。
- ◆ アスパラガスの栽培管理を高齢者グループに依頼し、希望者をパート雇用。



女子会が活躍する農家レストラン結の厨房

成果

- ◆ 体験農業の受け入れを事業化することで、受け入れ人数は、20 人から 400 人に増加し、法人の主な収益事業となっている。
- ◆ 農家レストランは、地産地消のメニューの開発などにより好評となり、営業日を増やし、売上は立ち上げ時の 100 万円から 1,100 万円に増加 (H26 ~ H29)。
- ◆ 平成 27 年からブランド米の輸出の取組を開始。

有限会社 ココ・ファーム・ワイナリー



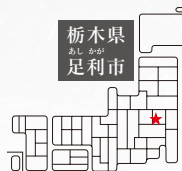
毎年 11 月に開催される収穫祭の賑わい

該当カテゴリー

6 次産業化

企業・地域住民・大学との連携

医療・福祉との連携



〒326-0061 栃木県足利市
田島町 611
tel 0284-42-1194
fax 0284-42-2166
mail office-m@cocowine.com



葡萄畑での作業状況

概要

- ◆隣接する障がい者支援施設「こころみ学園」の園生 150 名とともに葡萄栽培、ワイン製造に取り組む。
- ◆福祉を売り物としない、国際水準の美味しいワインを製造するため、海外や一流の醸造技師やコンサルタントを招聘。
- ◆「葡萄がなりたいワインになれるよう」適地適品種の葡萄を野生酵母で発酵させるなど、自然を生かした農産品づくりに取り組む。

成果

- ◆ワイン、農産物加工品などの売上が約 6.5 億円から約 7.4 億円に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆製造したワインがサミットや国際線のファーストクラスで提供されるなどの高い評価を受ける。
- ◆地元畜産農家と連携し、独自に開発した飼料で育てた牛が「足利マール牛」としてブランド化。



主なワイン商品ラインナップ

株式会社 もてぎプラザ



「バウム工房ゆずの木」の店内風景

該当カテゴリー

地元食材の提供・活用

雇用

6 次産業化



〒321-3531 栃木県芳賀郡
茂木町大字茂木 1090-1
tel 0285-63-5671
fax 0285-63-5681
mail info@motegi plaza.com

概要

- ◆ゆずの加工品や、町内産米粉と地元産たまごを使用したバウムクーヘンを開発し、地産地消に貢献。
- ◆加工品などの売上の増加に伴い、「バウムクーヘン第 2 工場」をオープンするなど、地域の雇用機会の拡大に貢献。
- ◆平成 28 年に農事組合法人を立ち上げ、高齢化による将来的な農産物の供給不足に対応。

成果

- ◆地域の雇用にも貢献し、雇用者数が、4 名から 34 名に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆「手づくり工房」及び「バウム工房ゆずの木」の売り上げが約 3,300 万円から約 1.8 億円に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆平成 28 年には「ゆず」だけでなく「いちご・ブルーベリー・えごま・りんご・梅・米」の買取にまで拡大し、農家の所得向上に貢献。



手づくり工房で製造している商品の一部



ゆずを加工している様子

一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社



該当カテゴリー

農泊

インバウンド

6次産業化



〒368-0032 埼玉県秩父市
熊木町 9-5 秩父ビジネスプラザ1F
tel 0494-26-6260
fax 0494-26-7331
mail info@chichibu-omotenashi.com

農泊：農家家庭との交流 第2のふるさと



秩父夜祭山車曳き体験 外国人ツアー開催



6次産業化商品プロデュース 地産紅茶など

概要

- ◆「滞在型観光の推進」「外国人観光客の増加」「地域ブランドの確立と販売促進」を目指し、公社を設立。
- ◆教育旅行に特化した農泊を、個人観光客や、インバウンドに広げるためPRを実施。
- ◆地域商社を構築し、直売会の定期開催・6次産業化商品の開発及び販売などに取り組む。

成果

- ◆教育旅行からターゲットを拡大し、平成29年度には約5,000人の外国人観光客が宿泊。
- ◆農泊やインバウンドプロモーションに関するマネジメント組織の体制整備、体験型プログラムやコンテンツの磨き上げなどを行い、平成29年度には宿泊売上（農泊）が約1,100万円まで増加。

株式会社 桑郷



該当カテゴリー

インバウンド

自然・景観・伝統・継承

6次産業化



〒409-3602 山梨県西八代郡
市川三郷町山保 6319 番地
tel 055-230-3208
fax 055-230-3207
mail kuwanosato@sky.plala.or.jp

地元の人々の雇用拡大、定住や地域活性化



耕作放棄地を再生し桑の新植を実施

概要

- ◆平成20年に会社を設立し、奇跡の桑【一瀬桑】を使用した「桑茶」を開発。
- ◆養蚕業の衰退により、耕作放棄地となった桑畑を復活。
- ◆過疎化が進む地域においても「桑茶」を活用し、地域の自立促進に大きく貢献。
- ◆JICAの海外支援事業や農福連携にも取り組む。

成果

- ◆耕作放棄地解消面積は、2haから7haに拡大（H25～H29）。
- ◆雇用者数は、4人から31人に増加（H24～H30）。
- ◆桑茶の生産量は、H29年には12.5tとなり、売上も約2千万円から約1億円に増加（H24～H29）。
- ◆過去に日本の養蚕を支えた【一瀬桑】は形を変えて今度は日本の健康を支える。過去の歴史を未来につなげる活動をしている。



昔ながらの青々とした桑畑の景観が蘇った

南砺市商工会 利賀村支部



獅子舞の衣装をつけて、地域の祭礼に参加

該当カテゴリー

農林漁業・農山漁村文化体験

地元食材の提供・活用

学生・若者の活躍

〒939-2507 富山県南砺市
利賀村 171

tel 0763-68-2527

fax 0763-68-2626

mail aayoshi@yahoo.co.jp



青山ファーマーズマーケットで利賀の産物出展

概要

- ◆ 都市部の大学生を継続的に受け入れ、山村文化体験と食資源のPRを実施。
- ◆ 修学旅行など、都市部の小中学生を対象とした、長期宿泊体験を実施。
- ◆ 村内の祭事やイベントに合わせ、外国人観光客や若者ボランティアを受け入れるなど、地域活性化に取り組む。

成果

- ◆ 山村文化体験に参加した大学生が、SNSなどで情報発信を行ったことなどから、平成29年度には180人の外国人旅行者が訪問。
- ◆ 都市部の学生と協力し、土産品の開発を実施し、都市部でのPR及び売上向上を図る。
- ◆ 500人余りの地域住民のうち、120人がFBなどのSNSを活用した情報発信を行う。



外国人観光客がこの山村で流し素麺に初チャレンジ

合同会社 のとしし団



ぼたん鍋用の精肉

該当カテゴリー

鳥獣被害防止

地元食材の提供・活用

ジビエ

〒925-0613 石川県羽咋市
飯山町ヲ32番地

tel 0767-26-2944

fax 0767-26-2944

mail notoshishi@circus.ocn.ne.jp



被害対策として捕獲檻を設置

概要

- ◆ 平成27年に獣肉加工施設を整備し、捕獲したイノシシを地域資源として活用する、「のとしし大作戦」を開始。
- ◆ 地域おこし協力隊1名が「合同会社のとしし団」の代表となり自立。解体・販売などのノウハウを習得し、ジビエの生産を開始。
- ◆ ふるさと納税の返礼品に登録し、返礼品ランキングの首位となるなど高評価を受ける。

成果

- ◆ 精肉販売額は、100万円から1,600万円に増加(H27～H29)。
- ◆ 「のとしし」の猪肉をメニューとして提供する店舗は、7軒から35軒に増加(H27～H29)。
- ◆ 産業廃棄物として大半が処理される皮も、皮革製品として活用する取組を開始。



道の駅「のと千里浜」での店頭販売

小浜市阿納体験民宿組合



ブルーパーク阿納空撮

該当カテゴリー

農林漁業・農山漁村文化体験

地元食材の提供・活用

食育・教育

〒917-0105 福井県小浜市
阿納 11-8

tel 0770-54-3046

fax 0770-54-3539

mail kk-3046@ma.cho.ne.jp



初めてのチャレンジ マダイの捌き

概要

- ◆ 養殖したマダイを「釣って、捌いて、食べる」体験施設を設置し、教育旅行の受け入れを開始。漁家民宿へ宿泊し、漁村集落特有の文化体験を行う。
- ◆ 毎年 20 ～ 30 校の県外の中学校などに漁家が訪問し、自ら地域の魅力を PR。
- ◆ 大自然の中でのシーカヤック体験、養殖イカダ・餌やりなど、地域資源を活かした新たな体験メニューを開発。

成果

- ◆ 漁家民宿への宿泊者数は毎年 2.5 万人を越え、平成 29 年度には、漁家 1 戸あたりの収入が約 430 万円増加。
- ◆ 体験学習施設の売上は、約 2,900 万円から約 5,600 万円に増加 (H25 ～ H29)。
- ◆ 体験をきっかけに県外から地元の高校に入学する生徒が 5 名現れるなど、定住や I ターンにもつながり、漁村集落の活性化にも貢献。



漁村の暮らしの話を目撃させる子供たち

一般社団法人 おいでん・さんそん



あすけ 足助高校で第 1 弾「猪肉キーマカレー」商品発表会

該当カテゴリー

鳥獣被害防止

ジビエ

食育・教育

〒444-2424 愛知県豊田市
足助町宮ノ後 26-2

tel 0565-62-0610

fax 0565-62-0614

mail sanson-center@city.toyota.aichi.jp



イベント出展では足助高校生が販売促進に大活躍

概要

- ◆ いなかとまちの人・地域・団体・企業をつなぐため中間支援機関を設立し、マッチング事業を柱とする持続可能な地域づくりに取り組む。
- ◆ 企業と地域を連携させ、耕作放棄地の解消にも貢献。
- ◆ 企業、高校、猪肉を扱う会社の 3 者を連携させ、猪肉カレーを開発。

成果

- ◆ 企業と高校を連携させ開発した「猪肉カレー」は、平成 29 年度に約 700 万円の売上。
- ◆ 市場の高い評価を背景に、第 2 弾の「猪肉和風カレー」を開発。発売 2 ヶ月足らずで 2,300 食販売。
- ◆ 平成 28 年度に 46 件のマッチングを実施するなど、毎年約 30 件以上の都市と山村をつなぐマッチングを実施。



愛知県知事公邸で試食会。話題に拍車がかかる

つくでスマイル 推進協議会



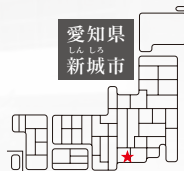
旧菅守小学校跡地全景

該当カテゴリー

ジビエ

地元食材の提供・活用

女性・高齢者の活躍

〒441-1404 愛知県新城市
作手菅沼字マンゼ 18

tel 0536-39-3130

fax 0536-39-3130

mail tsukudesugamori@gmail.com



そば打ち体験

概要

- ◆ 小学校閉校により地域コミュニティ力の減退を懸念する住民の声をきっかけに地域活動組織を充足し、廃校を交流拠点施設とした活動に取り組む。
- ◆ 小学校の廃校を活用し、鹿や猪を使ったジビエ料理、地域の農水産物を使用した料理を提供する農家レストランを開始。
- ◆ 周辺施設を里山博物館と見立て、木工体験、ピザ作り体験などの各種体験を実施。



アマゴのつかみ取り体験

成果

- ◆ 農家レストランの利用者数は、約 2,500 人から約 4,200 人に増加 (H26 ~ H29)。
- ◆ 各種体験参加者数は、102 人から 390 人に増加 (H27 ~ H29)。
- ◆ 企業の地域活性化事業の場としても利用され、そば打ち体験、アマゴのつかみ取り体験などを実施し、地域外へも PR を実施。
- ◆ 新たに WEB サイトを立ち上げ、地域住民 47 人がライターとなって地域の魅力を情報発信。

株式会社 梶賀コーポレーション



地元朝市・尾鷲イタダキ市での出店販売

該当カテゴリー

自然・景観・伝統・継承

地元食材の提供・活用

女性・高齢者の活躍

〒519-3923 三重県尾鷲市
梶賀町 312-2

tel 090-7823-1789

fax 050-3488-1628

mail m_nakagawa2001@mercury.ne.jp



梶賀のあぶり製造風景 昔ながらの手作業

概要

- ◆ 高齢化・人口減少が進む中、100 年以上前から伝わる魚の燻製食「梶賀のあぶり」の商品化に取り組む。
- ◆ 平成 28 年に赴任した地域おこし協力隊 2 名を核に、梶賀まちおこしの会で株式会社を設立。
- ◆ 町民のみが株主となる制度を設け、増収・増益に伴う町民からの仕入れ値アップや株主の配当を行い、町民全体に利益を享受。



地元・尾鷲高校の課外授業であぶり体験

成果

- ◆ 「梶賀のあぶり」の売上は、約 260 万円から約 1,200 万円に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 町民からの仕入れ値は、約 130 万円から約 360 万円に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 地元特産品として有名になり、テレビや雑誌などへの露出により知名度が向上し、また、県外の店舗でも取り扱われるほか、SNS などでの情報発信により、お盆や正月の帰省客が増加。

与謝地域 山村活性化協議会



該当カテゴリー

雇用

6次産業化

障がい者の活躍

〒629-2403 京都府与謝郡
与謝野町字加悦 433

tel 0772-43-9023

fax 0772-43-2194

mail norin@town.yosano.lg.jp

農福連携と雇用の促進



京都 X キャンプ（大学生）と連携した農産物の商品開発



都市農村交流イベントの様子

概要

- ◆ 未利用野菜を高機能冷凍機で長期保存可能なカット野菜にし、旬でない時期に販売することで高付加価値化を実現。
- ◆ 大学生と連携し、農産物を活用した商品開発や販売促進イベントを開催。
- ◆ 協議会と企業が連携し、「ひまわりフェスティバル」や「秋の収穫祭」など、様々なイベントを企画・開催。

成果

- ◆ 農産物加工品の売上は、約 1,500 万円から約 2,000 万円に増加（H25～H29）。
- ◆ 農産物加工所の売上増加に伴い、健常者とともに障がい者の雇用も増加。
- ◆ 協議会委員を中心とした、地域の魅力の情報発信により、近年では町外からの移住者が見られるようになった。

有限会社 こやま園



該当カテゴリー

地元食材の提供・活用

6次産業化

輸出

〒669-4141 兵庫県丹波市
春日町黒井 1972

tel 0795-74-2152

fax 0795-74-0058

mail info@kyme.jp

原材料のなた豆は地元グループ農家と栽培



なた豆の栽培から商品まで自社にて一貫生産

概要

- ◆ 昔から丹波地方で民間薬用に栽培されてきた「なた豆」を「なた豆茶」として、加工販売。
- ◆ 地元農家と連携し、自社農園で原料のなた豆を栽培。加工も自社工場で行い、自社での一貫した生産を実施。
- ◆ 海外展開も積極的に行い、香港やベトナムに現地法人を立ち上げ、輸出を開始。

成果

- ◆ 「なた豆茶」の売上は、8,000 万円から 1.2 億円に増加（H25～H29）。
- ◆ 輸出額は、100 万円から 1,000 万円に増加（H26～H29）。
- ◆ 「なた豆茶」を通じて、地元丹波の食材（栗・黒豆・野菜など）を首都圏のレストランのメニューに取り入れてもらうなど、丹波ブランドの知名度向上に貢献。



ベトナムのスーパーにて試飲販売の様子

一般社団法人 吉野かわかみ社中



ハウスメーカーと連携した吉野林業見学ツアー

該当カテゴリー

雇用

6次産業化

林業の振興



〒639-3553 奈良県吉野郡
川上村大字迫 1335 番地の9
tel 0746-52-9555
fax 0746-52-9556
mail info@yoshinoringyo.jp



吉野スギをふんだんに使用した福祉施設

概要

- ◆ 製材加工施設を整備し、原木加工から最終製品まで対応できる体制を構築し、消費者ニーズに合致した商品開発に取り組む。
- ◆ 住宅メーカーと連携した吉野杉ツアーの実施により、住宅建設を検討している消費者に吉野杉の活用を販促。
- ◆ 全国初の国産材楽器「吉野スギバイオリン」の開発に協力。

成果

- ◆ 林業・木材業新規従事者は、1人から15人に増加（H27～H29）。
- ◆ 木工製品などの売上は、約20万円から約5,500万円に増加（H27～H29）。
- ◆ 売上増加に伴い、新たな雇用が創出され、定住につながっている。
- ◆ ホテルや各店舗との取引が広がり、林業従事者の雇用拡大に貢献。



新商品開発製品をPRするための展示会出展

い ち に ち り ょ う おおだ一日漁 推進協同組合



該当カテゴリー

自然・景観・伝統・継承

食育・教育

地元食材の提供・活用



〒694-0051 島根県大田市
久手町波根西 2690-11
tel 0854-82-3975
fax 0854-82-9357
mail oneday-fish@okatomi.jp

ロゴデザイン、シール、幟などを作成



地元小学生への地域社会学習（食育）

概要

- ◆ 出漁した日の夕方に水揚げした魚が競りにかけられる、この地域ならではの漁形態をブランド化しPR。
- ◆ 行政と連携し、学校給食に一日漁の鮮魚を多く取り入れてもらうなど、魚食普及に努める。
- ◆ デザインロゴを作成し、ポスターや幟をスーパーや卸売業者に配布。

成果

- ◆ 売上は、11.2億円から17.6億円に増加（H25～H29）。
- ◆ ブランド化により魚価が高くなり、若い船員の後継者が多く存在。
- ◆ 消費者の認知度向上に加えて、テレビなどのメディアでも取り上げられ、地域での評価が高まり、地元購買も進む。



地元イベントでの「一日漁」PR

地美恵の郷みまさか (美作市獣肉処理施設)



道の駅での人気商品 シカ肉カレー

該当カテゴリー

鳥獣被害防止

ジビエ

地元食材の提供・活用

〒707-0023 岡山県美作市
平福 600-1

tel 0868-75-4400

fax 0868-75-4800

mail jibie@city.mimasaka.lg.jp



新人猟師への狩猟講習会

概要

- ◆ 有害鳥獣の駆除や、ジビエ活用のため、狩猟講習会の開催やジビエ普及イベントを開催。
- ◆ 猪肉を活用したコロッケを開発し、学校給食へ提供。
- ◆ 企業と連携し、鹿革を使ったクラフト体験の実施や、商品開発を行い、市の観光などにも寄与。



鹿革クラフト体験は、全国的にも珍しい

成果

- ◆ 食肉販売量は、約 4t から約 9t に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 処理施設の整備により猟師の捕獲意欲が高まり、平成 29 年度には、ニホンジカを捕獲した猟師の約 7 割が施設に搬入。
- ◆ 食肉などの利活用が進み、全国では約 1 割である食肉率が、当地域では約 5 割と高い水準。

株式会社 瀬戸内ジャムズガーデン



耕作放棄地再生・農家と連携・いちご実証

該当カテゴリー

国内観光客の誘致

移住・定住

6 次産業化

〒742-2804 山口県大島郡
周防大島町 日前三 331-8

tel 0820-73-0002

fax 0820-80-4228

mail setouchi@jams-garden.com



地域を巻き込んだ 6 次産業商品

概要

- ◆ 農家や企業と連携し経済循環を造るとともに、U・I ターン者を応援する会を創設。
- ◆ 多数の農家と連携し、地域性のある多種類のジャムを生産するなど、雇用拡大や耕作放棄地解消に貢献。
- ◆ 定住促進協議会や観光協会と連携し、観光交流人口増加を目的とした、ツアーやイベントを企画。



島の漁協や農家を巻き込んだイベントを主催

成果

- ◆ 10 万瓶しか製造できなかった設備を増築し、平成 29 年度には約 15 万瓶を製造。これに伴い、売上は 6,500 万円から 1 億円に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 観光交流人口は、約 92 万人から約 106 万人に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 取組が移住企業のモデルとして注目され、地域と連携した移住者や企業者が増加。

か も だ に 加茂谷 元気なまちづくり会



該当カテゴリー

移住・定住

6次産業化

企業・地域住民・大学との連携

〒771-5173 徳島県阿南市
加茂野上 22-11

tel 0884-25-0113

fax 0884-25-0115

mail kamodani@kominkan-anan.jp

チンゲンサイで就農した移住家族



移住就農希望者への農業体験ツアー

概要

- ◆ 都市部での就農誘致イベントに住民自らが出展し、地域をPR。
- ◆ 短期体験ツアーの企画運営、都市部の大学生の農業インターンシップの受け入れなど、移住・定住を促進。
- ◆ 移住者への個別相談会を開催し、生活面から営農指導までトータルサポート。
- ◆ スーパーでのインスタ販売による6次産業化に取り組む。

成果

- ◆ 平成27年度から毎年若い家族が1組ずつ移住し、平成29年度までには合計で13家族、52名が定住。
- ◆ 農産物直売活動に取り組み、交通の便が悪い地域における経営スタイルを確立し、売上は約300万円から約5,800万円に増加(H26～H29)。



都会からの大学災害復興ボランティア

ゆ す か わ 企業組合 遊子川ザ・リコピンスズ



該当カテゴリー

地元食材の提供・活用

6次産業化

女性・高齢者の活躍

〒797-1712 愛媛県西予市
城川町遊子谷 2370 番地 1

tel 0894-89-1663

fax 0894-85-0355

mail lycopins48@gmail.com

遊子川ファンづくりのためのトマトオーナー制度導入



トマト酢をベースに製造販売中のトマト加工品

概要

- ◆ 出荷できず破棄されていた規格外トマトを活用し、加工品の商品開発を開始。
- ◆ 併設した農家レストランで地域で採れる旬の野菜やトマトを使ったメニューを提供。また地域のコミュニティの場としても提供。
- ◆ 地域の雇用を創出するとともに、トマトオーナー制度、移住体験ツアーの受け入れを実施するなど、地域活性化に取り組む。

成果

- ◆ 加工品の売上は、約300万円から約600万円に増加(H26～H29)。
- ◆ 特産品開発事業・農家レストラン事業の推進により、交流人口の拡大に貢献。
- ◆ 加工原料となる地域農産物の買取により、農家の収益性の向上や経営安定化に寄与。
- ◆ 県内をはじめ都市部の取引先が増え、輸出も開始。



地元農家さんから原材料のにんにくの納品

きたがわむら
北川村

ゆず輸出促進協議会



SIAL2012 (パリ) で青果ゆず出展

該当カテゴリー

移住・定住

輸出

女性・高齢者の活躍



〒781-6441 高知県安芸郡
北川村野友甲 1530 番地
tel 0887-32-1221
fax 0887-32-1234
mail sangyo@vill.kitagawa.lg.jp



青果輸出作業

概要

- ◆ 北川村ゆずの価格平準化及び販売拡大を目的として、海外への販路を求め輸出促進協議会を設立。
- ◆ フランスで開催されたゆず賞味会により、現地での青果の要望が高まり、世界初となる EU への「青果ゆず」の輸出を開始。
- ◆ 輸出拡大により国内外の販売価格も向上し、平均年齢 70 歳となる生産者の意欲が向上。

成果

- ◆ ゆず果汁の輸出数量は、約 50t から約 72t に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 青果ゆずの輸出数量は、約 3t から 8t に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ 加工用ゆずの精算単価は、約 140 円 / Kg から約 167 円 / kg に増加 (H25 ~ H29)。
- ◆ ゆずの販売単価の向上に伴い農家の収入が増加したことにより、ゆず専業農家をを目指す若手が増加。



パリで行われたゆず賞味会 (H23)

福岡県立
福岡農業高等学校
食品科学科梅研究班

観光列車旅人での販売

該当カテゴリー

地元食材の提供・活用

6 次産業化

学生・若者の活躍



〒818-0134 福岡県太宰府市
大佐野 250
tel 092-924-5031
fax 092-928-0740
mail upd@galaxy.ocn.ne.jp



梅園での収穫作業

概要

- ◆ 地元特産物の「太宰府の梅」を活用し、地域のブランド化を強化するため、行政・企業と連携し「太宰府梅サイダー」を開発。
- ◆ 福岡農業高校の生徒が梅の収穫から梅シロップの加工・製造を実施。

成果

- ◆ 太宰府天満宮の参道店舗や、観光列車でも販売されるなど、太宰府市の新たな名産品として、地域の観光振興や活性化に貢献。
- ◆ 梅園維持・環境整備に貢献するため、売上の一部を太宰府市へ寄付し、地域ブランド向上を目指した地域循環型プロジェクトに貢献。
- ◆ JA と連携し、新規就農の創出や所得向上に向けた取組へと発展。



太宰府梅サイダー

株式会社 成美



「働き盛り」「子育て盛り」の女性たちの活躍の場に

該当カテゴリー

ジビエ

6次産業化

女性・高齢者の活躍

〒879-7311 大分県豊後大野市
犬飼町柴北 1099-2

tel 097-579-7177

fax 097-579-7178

mail info@narumi-oita.com



弊社オリジナル商品 女性ならではのデザインが特徴

概要

- ◆従業員は全員女性で、働き方改革をいち早く取り入れ、地域の中でフレキシブルに働ける環境を創出。
- ◆地元農産物の規格外品を、付加価値を付けた加工品として商品にすることで、生産者の所得向上に貢献。
- ◆県のジビエ振興協議会に加入し、ジビエ料理の普及拡大や消費拡大に努める。

成果

- ◆売上高は、200万円から約7,200万円に増加（H25～H29）。
- ◆企業や生産者と連携するなど、平成29年度には商品数が45商品にまで増加。また、自社オリジナル商品も平成29年度には13商品に増加。
- ◆仕入れ食材の種類は、4種類から27種類に増加し（H25～H29）、地元生産者の安定収入に寄与。



地元食材の良さを知ってもらうため全国の展示会を駆け巡る

ウーマンメイク株式会社



女性目線で開発した商品パッケージ

該当カテゴリー

雇用

医療・福祉との連携

女性・高齢者の活躍

〒873-0223 大分県国東市
安岐町大添 572 番地 1

tel 0978-67-3007

fax 0978-67-3007

mail woman.make.co@gmail.com

概要

- ◆課題の多い農業分野において、新時代は女性が創るとの想いを込めて、女性だけで起業。
- ◆柔軟な勤務形態でレタス栽培に取り組み、地元雇用を創出。
- ◆社会福祉法人と連携し、業務委託や精神障害を抱える若者を積極的に採用。
- ◆女性の感性を活かし、商品開発でブランド化を図り、売上を伸ばす。



全員女性☆19歳から65歳までの従業員！

成果

- ◆レタスの売上は、4,200万円から6,200万円に増加（H28～H29）。
- ◆ライフスタイルやニーズを考えた商品開発を行い、独自ブランドで全国展開。
- ◆安定的に利益が上がる農業システムを確立したことで、国内外からの視察が増加。
- ◆視察を機に、農業へ参入した企業もあるなど、他地域への波及にも寄与。



子連れ出勤 OK な環境

株式会社 くしまアオイファーム



該当カテゴリ

雇用

6次産業化

輸出



〒889-3531 宮崎県串間市
大字奈留 6564-12
tel 0987-71-2117
fax 0987-71-2118
mail info@aoifarm-gr.com

さつまいもの収穫作業



スタッフ集合写真

概要

- ◆ これまで廃棄されていた小芋が海外で需要があることに着目し、輸出を開始。
- ◆ 意図的に小ぶりさつまいもを栽培する「小畝密植栽培法」を開発・実践。
- ◆ 平成30年に近隣大学の農学部との共同研究講座を開設し、さつまいもの新品種の開発、栄養機能の分析、ウイルス病害対策や貯蔵性を高める技術開発などの研究を進めている。
- ◆ 生産・貯蔵・加工施設を市内に整備し、雇用の場を創出。

成果

- ◆ さつまいもの売上は、4,600万円から7.2億円に増加(H26～H29)。
- ◆ さつまいもの輸出量は、69tから511tに増加(H27～H29)。
- ◆ 雇用者数は9人から63人に増加(H26～H29)。
- ◆ 契約農家への支払額が平成29年度には3.1億円となるなど、地域経済の活性化、地域創生に貢献。



地元高校生との苗植（農業体験）

株式会社 美らイチゴ



該当カテゴリ

インバウンド

雇用

企業・大学等との連携



〒901-0601 沖縄県南城市
玉城垣花 555
tel 098-948-1015
fax 098-948-1015
mail info@chura-ichigo.jp

【学生受け入れ】新しい風が吹く



【SNS工夫】子どもたちも使える

概要

- ◆ 中古ハウスや遊休農地に新規グリーンハウスを建設し、いちごの栽培を開始。
- ◆ バリアフリー対応のイチゴハウスを観光農園として開園し、地元客や観光客、介護施設などからも需要が高い。
- ◆ ハウスに併設した選果場を利用し、いちごのパフェ・かき氷作りの体験ワークショップを実施。
- ◆ 開園時も、イベントや観光地に出展し、継続的な雇用を創出。

成果

- ◆ 平成29年度に開園したいちご農園の来園者数は3,000人となり、売上は260万円。
- ◆ SNS映えするような仕掛けを工夫し、来訪者が情報発信を行い、新たな集客に結びつくスタイルにつながっている。
- ◆ いちご狩りにより、地元客やインバウンドを含めた観光客が増加し、地域の活性化に貢献。



【スムージー】イチゴをふだんに使用し人気